

福山中・高等学校 中高一貫シラバス（期間指導項目・評価）

教 科	数学	科 目	期 間	1学期前半（中間試験）
中 高 ・ 学 年	中学校・1年	授業時数 期間/年間	20 / 140	教 科 書
副 教 材 1	実力練成テキスト中学校数学1	副 教 材 2		中学校数学1(大阪書籍)
		副 教 材 3・4		

年間の到達度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数を正の数と負の数まで拡張し，数の概念についての理解を深める。また，文字を用いることの意義及び方程式の意味を理解するとともに，数量などの関係や法則を一般的にかつ簡潔に表現し，処理できるようにする。 ・ 平面図形や空間図形についての観察，操作や実験を通して，図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに，論理的に考察する基礎を培う。 ・ 具体的な事象を調べることを通して，比例，反比例に対する見方や考え方を深めるとともに，数量の関係を表現し考察する基礎を培う。
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

到達度目標（含定期テスト）	数を正の数と負の数まで拡張し，数の概念についての理解を深める。 中間試験 70点以上の得点者 80%
---------------	-------------------------------------------------------

標準テスト等の目標	小節ごとに行う確認テスト（CRE）の通過率 80%以上
-----------	-----------------------------

月	単元・題材	主たる指導項目	主な評価規準 関心・意欲・態度 見方や考え方 表現・処理 知識・理解	主な評価方法	
4	1章 正の数と負の数	1章の扉	観察，操作，実験などの数学的活動を通して，身の回りにある負の数や反対の性質を持つ量を正の数・負の数を用いて表そうとする。正の数・負の数の四則計算について，すすんで能率的な計算の仕方を調べ，計算しようとする。 数を正の数・負の数にまで拡張することで，正の数と負の数が反対の方向や性質を表す数として便利であることに気づき，その関係を用いて考えることができる。 正の数・負の数の加減，乗除を加法と乗法に統合してとらえることができる。 正の数・負の数を数直線上に表したり，大小関係を不等号を用いて表したりすることができる。 加減，乗除の混じった式を加法や乗法に変換し，交換法則や結合法則を使って計算することができる。 正の数・負の数に関する用語やその意味を理解している。 正の数・負の数についても，加法，減法に関して交換法則や結合法則，分配法則が成り立つことを理解している。	行動 発言 ノート 自己評価	
	1節 正の数と負の数	反対の性質をもつ量			
		正の数と負の数			
		数の大小			
	2節 加法と減法	同じ符号の数の加法			
		異なる符号の数の加法			
		減法			
		加法と減法の混じった計算			
		練習問題			
	5	3節 乗法と除法			乗法(1)
		乗法(2)			
		除法			
		乗法と除法			
		1章のまとめ			四則の混じった計算
		練習問題・1章のたしかめ			
	中間試験				
	課題別学習（含む：中間試験直し）				

指導方法の工夫改善等	生徒が自ら数学の世界を広げるよう，問題解決的な学習活動を推進していく。 生徒の理解度に差が現れる場合は，習熟度別指導を積極的に行っていく。
------------	--------------------------------------------------------------------------

課題・提出物等	問題集「実力練成テキスト中学数学1」については，自主学習用として家庭学習や日々の授業で使用する。また，その実施状況を定期的に把握し，状況分析とその手立てを行う。
---------	----------------------------------------------------------------------------------

未到達者への対応	学習内容の理解が不十分な生徒に対しては，自ら学習課題を明らかにできる手立てを工夫するとともに，その克服に向けての課題別学習を実施する。
----------	---------------------------------------------------------------------

総合的な学習の時間，道徳（教育），特別活動等との関連等	
-----------------------------	--

福山中・高等学校 中高一貫シラバス（期間指導項目・評価）

教 科	数学	科 目		期 間	1学期後半（期末試験）
中 高・学 年	中学校・1年	授業時数 期間/年間	27 / 140	教 科 書	中学数学1（大阪書籍）
副 教 材 1	実力養成テキスト中学校数学1	副 教 材 2		副 教 材 3・4	

到達度目標 (含定期テスト)		基本的な平面図形の性質について、観察、操作や実験を通して理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法を理解し、推論の過程を的確に表現する能力を養う。 期末試験 70 点以上の得点者 80%			
標準テスト等の目標		小節ごとに行う確認テスト (CRE) の通過率 80%以上			
月	単元・題材	主たる指導項目	主な評価基準 関心・意欲・態度 見方や考え方 表現・処理 知識・理解		主な評価方法
5 6	2章 文字と式 1節 文字と式	2章の扉	数量やその関係・法則を一般的に表現するために、文字を用いて考えることの必要性やよさに関心を持ち、文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりしようとする。 事象の中にある数量やその関係・法則を文字を用いて表現し、数理的に考えることができる。 1次式の加法や減法、数と1次式の乗法の計算方法を考えることができる。 数量やその関係・法則を文字を用いて式に表したり、式の意味を読み取ったりすることができる。 文字に値を代入することで、文字を用いた式を具体的な事象に適用することができる。 1次式の加法や減法、および数と1次式の乗法の計算ができる。 文字の式を表すときに約束がわかる。 項、係数、1次式、等式などの用語がわかる。	行動 発言 ノート 自己評価	
		文字を使った式			
		文字式の表し方			
		文字を使った数量の表し方			
		式の値			
		練習問題			
	2節 1次式の計算	1次式			
		1次式の加法と減法			
		1次式と数の乗法			
		練習問題			
		等しい関係を表す式			
		2章のたしかめ・とりくんでみよう			
3節 等式 まとめ	確認テスト（観点別絶対評価問題）				
	課題別学習				
7	3章 方程式 1節 方程式	3章の扉	1元1次方程式およびその解の意味に関心を持ち、自分なりの方法で解を求めようとする。 等式の性質と移項の関係に関心を持ち、進んで調べようとしている。 等式の性質を見だし、方程式の解き方と結びつけて考えることができる。 方程式を解くとき、どの等式の性質が使われているのか説明することができる。 等式の性質を用いて能率よく方程式を解くことができる。 等式の性質を理解している。 1元1次方程式および、その中の文字や解の意味を理解している。	行動 発言 ノート 自己評価	
		方程式			
		等式の性質			
		1次方程式の解き方(1)			
	1次方程式の解き方(2)				
	2節 方程式の利用	方程式の利用(1)			
		方程式の利用(2)			
		期末試験			
		課題別学習（含む：期末試験直し）			
	まとめ				
指導方法の工夫改善等	生徒が自ら数学の世界を広げるよう、問題解決的な学習活動を推進していく。 生徒の理解度に差が現れる状況の場合は、習熟度別指導を積極的に行っていく。				
課題・提出物等	問題集「実力養成テキスト中学数学1」については、自主学習用として家庭学習や日々の授業で使用。また、その実施状況を定期的に把握し、状況分析とその手立てを行う。				
未到達者への対応	学習内容の理解が不十分な生徒に対しては、自ら学習課題を明らかにできる手立てを工夫するとともに、その克服に向けての課題別学習を実施する。				
総合的な学習の時間、道徳（教育）、特別活動等との関連等					

福山中・高等学校 中高一貫シラバス（期間指導項目・評価）

教 科	数学	科 目	26 / 140	期 間	2学期前半（中間試験）
中 高 ・ 学 年	中学校・1年	授業時数 期間/年間		教 科 書	中学校数学1(大阪書籍)
副 教 材 1	実力練成テキスト中学校数学1	副 教 材 2		副 教 材 3・4	

到達度目標 (含定期テスト)	具体的な目標を調べることを通して、比例、反比例の見方や考え方を深めるとともに、数量の関係を表現し考察する基礎を養う。 中間試験 70 点以上の得点者 80%とする。				
標準テスト等の目標	小節ごとに行う確認テスト（CRE）の通過率 80%以上				
月	単元・題材	主たる指導項目	主 要 評 価 規 準 関心・意欲・態度 見方や考え方 表現・処理 知識・理解	主な評価方法	
9	3章 方程式 まとめ	夏休み明けテスト(1学期の確認)	具体的な事象の中にある2つの数量の関係に関心をもち、比例や反比例の関係のある事象を見つけ出そうとする。 比例・反比例の関係の特徴を表、式、グラフを用いて調べようとする。 比例、反比例の関係を理解し、表、式、グラフを活用してその特徴を統合的に考察することができる。 身近な事象を、比例や反比例の考えを活用して考察することができる。 文字を変数として扱うことができる。 2つの数量関係を、文字を使って式に表すことができる。 伴って変わる2つの数量の変化の様子を表やグラフに表すことができる。 軸、y軸、座標などの意味を理解している。 変数と変域を理解している。 比例や反比例、またそのグラフの特徴を理解する。	行動 発言 ノート 自己評価	
		課題別学習			
		練習問題			
		3章のたしかめ・とりくんでみよう			
		方程式の復習・発展学習			
	4章 比例と反比例 1節 比例	4章の扉			
		比例を表す式			
		比例と変域			
		比例の式の求め方			
		座標			
2節 反比例	比例のグラフ				
	比例のグラフのかき方と特徴				
	練習問題				
	反比例				
	反比例の式の求め方				
10	3節 比例と反比例 の利用 まとめ	反比例のグラフ	具体的な事象の中にある2つの数量の関係に関心をもち、比例や反比例の関係のある事象を見つけ出そうとする。 比例・反比例の関係の特徴を表、式、グラフを用いて調べようとする。 比例、反比例の関係を理解し、表、式、グラフを活用してその特徴を統合的に考察することができる。 身近な事象を、比例や反比例の考えを活用して考察することができる。 文字を変数として扱うことができる。 2つの数量関係を、文字を使って式に表すことができる。 伴って変わる2つの数量の変化の様子を表やグラフに表すことができる。 軸、y軸、座標などの意味を理解している。 変数と変域を理解している。 比例や反比例、またそのグラフの特徴を理解する。	行動 発言 ノート 自己評価	
		練習問題			
		比例と反比例の利用			
		4章のたしかめ・とりくんでみよう			
		確認テスト（課題別絶対評価問題）			
	まとめ	課題別学習			
指導方法の工夫改善等	生徒が自ら数学の世界を広げるよう、問題解決的な学習活動を推進していく。 生徒の理解度に差が現れる状況の場合は、習熟度別指導を積極的に行っていく。				
課題・提出物等	問題集「実力練成テキスト中学数学1」については、自主学習用として家庭学習や日々の授業で使用。また、その実施状況を定期的に把握し、状況分析とその手立てを行う。				
未到達者への対応	学習内容の理解が不十分な生徒に対しては、自ら学習課題を明らかにできる手立てを工夫するとともに、その克服に向けての課題別学習を実施する。				
総合的な学習の時間、 道徳（教育）、特別活動 等との関連等					

福山中・高等学校 中高一貫シラバス（期間指導項目・評価）

教 科	数学	科 目		期 間	2 学期後半（期末試験）
中 高 ・ 学 年	中学校・1 年	授業時数 期間 / 年間	2 9 / 1 4 0	教 科 書	中学数学 1 (大阪書籍)
副 教 材 1	実力練成テキスト中学校数学 1	副 教 材 2		副 教 材 3 ・ 4	

到達度目標 (含定期テスト)		平面図形や空間図形についての観察，操作や実験を通して，図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに，論理的に考察する基礎を養う。 期末試験 70 点以上の得点者 80%とする。				
標準テスト等の目標		小節ごとに行う確認テスト (CRE) の通過率 80%以上				
月	単元・題材	主たる指導項目	主な評価規準 関心・意欲・態度 見方や考え方 表現・処理 知識・理解	主な評価方法		
10	5 章 平面図形 1 節 平面図形の観察	5 章の扉 折って重なる図形 まわして重なる図形 円と直線 練習問題	線対称，点対称な図形に興味・関心を持ち，身の回りから対称な図形を進んで見つけようとする。 基本的な図形とその作図について興味を持ち，数学的なよさに関心を持つとともに，作図を進んで活用しようとする。 平面図形と空間図形の関係に関心をもち，進んで考察しようとする。 作図の方法を対称性に着目して考察する。 基本作図に帰着させて，いろいろな問題の作図方法を考えることができる。 空間における直線や平面の位置関係について平面上における点や直線の位置関係から類推して，見通しをもって考察することができる。 基本的な作図をすることができる。 基本作図を利用して，いろいろな作図をすることができる。 作図の手順を説明することができる。 空間における直線や平面の位置関係を類別することができる。 柱体やすい体などの立体が，どのような線分や平面図形の運動によって構成されているかを説明できる。 2 直線の位置関係，いろいろな記号の意味を理解している。 線分の垂直二等分線や角の二等分線，垂線や円の接線の作図法を理解している。 空間における直線や平面の位置関係を理解している。 空間における距離の意味を理解している。 おうぎ形の弧の長さや面積，角柱，円柱，角すい，円すいの表面積と体積を求める方法を理解している。	行動 発言 ノート 自己評価		
11	2 節 平面図形の作図 まとめ	角の二等分線 垂線 垂直二等分線 5 章のたしかめ・とりくんでみよう 平面図形の復習・発展				
12	6 章 空間図形 1 節 空間図形の観察	6 章の扉 多角形で囲まれた立体 点，直線と平面 直線，平面の位置関係 平面図形で動いてできる立体				
	2 節 図形の計量 まとめ	おうぎ形の弧の長さや面積 立体の表面積 立体の体積 練習問題 6 章のたしかめ・とりくんでみよう 学年末確認テスト (課題別絶対評価問題) 課題別学習 期末試験 課題別学習 (含む：期末試験直し)				
指導方法の工夫改善等		生徒が自ら数学の世界を広げるよう，問題解決的な学習活動を推進していく。 生徒の理解度に差が現れる状況の場合は，習熟度別指導を積極的に行っていく。				
課題・提出物等		問題集「実力練成テキスト中学数学 1」については，自主学習用として家庭学習や日々の授業で使用する。また，その実施状況を定期的に把握し，状況分析とその手立てを行う。				
未到達者への対応		学習内容の理解が不十分な生徒に対しては，自ら学習課題を明らかにできる手立てを工夫するとともに，その克服に向けての課題別学習を実施する。				
総合的な学習の時間， 道徳 (教育)，特別活動 等との関連等						

福山中・高等学校 中高一貫シラバス（期間指導項目・評価）

教 科	数学	科 目		期 間	3学期（学年末試験）
中 高 ・ 学 年	中学校・1年	授業時数 期間/年間	38/140	教 科 書	中学数学1(大阪書籍)
副 教 材	2 体系数学 代数編	副 教 材	3 実力練成テキスト中学校数学2	副 教 材	4

到達度目標 (含定期テスト)		文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を伸ばすとともに、連立2元1次方程式や関数について理解し、それを用いる能力を養う。 学年末試験70点以上の得点者80%とする。					
標準テスト等の目標		小節ごとに行う確認テスト(CRE)の通過率80%以上					
月	単元・題材	主たる指導項目	主な評価規準 関心・意欲・態度 見方や考え方 表現・処理 知識・理解	主な評価方法			
12 1	第2章 式の計算 (復習)	文字の式	文字式の計算のきまりに興味・関心を持つ。 文字式によって関係や法則が一般的に、しかも簡潔に表現できることに関心を持ち、簡単な等式を必要に応じて変形しようとする。 多項式の加法と減法や、単項式の乗法と除法の計算を、既習の計算法則と結びつけてとらえることができる。 文字や文字式を利用した表現・処理が、抽象的・形式的に計算したり、数量関係を一般的に説明したりするのに有用な手段であることがわかる。 簡単な多項式の加法や単項式の乗法など、いくつかの文字を含む数式の四則計算ができる。 等式の性質の意味を理解している。	行動 発言 ノート 自己評価			
	まとめ	多項式の計算(1)					
		多項式の計算(2)					
		冬休み明けテスト(1,2学期の確認) 課題別学習					
	3 単項式の乗法と 除法	乗法、除法					
		式の値					
	4 文字式の利用	文字を用いた公式					
		文字を用いた説明					
		規則性の発見					
		確認問題 演習問題A・B					
	2	第3章 方程式			2 1次方程式の解き方(復習)	問題解決にあたって、連立2元1次方程式を用いることよさに気づき、積極的に活用しようとする。 連立2元1次方程式は、1つの文字を消去することにより、1元1次方程式に帰着して解決できることを理解する。 問題に応じた解法の選択を、適切に判断することができる。 連立方程式やその解き方を理解している。	行動 発言 ノート 自己評価
		4 連立方程式			連立方程式とその解		
連立方程式の解き方(代入法)							
連立方程式の解き方(加減法)							
5 連立方程式の 利用		連立方程式と解					
		連立方程式の利用					
	確認問題 演習問題A・B						
3	第5章 1次関数	関数	具体的な事象の中にある2つの数量の関係に関心を持ち、比例や反比例の関係のある事象を見つけ出そうとする。 比例・反比例の関係の特徴を表、式、グラフを用いて調べようとする。 比例、反比例の関係を理解し、表、式、グラフを活用してその特徴を統合的に考察することができる。 身近な事象を、比例や反比例の考えを活用して考察することができる。 文字を変数として扱うことができる。 2つの数量関係を、文字を使って式に表すことができる。 伴って変わる2つの数量の変化の様子を表やグラフに表すことができる。 軸、y軸、座標などの意味を理解している。 変数と変域を理解している。 比例や反比例、またそのグラフの特徴を理解する。	行動 発言 ノート 自己評価			
	1 変化と関数	比例を表す式					
		座標					
	2 比例とそのグラフ	比例のグラフ					
		反比例を表す式					
	3 反比例とそのグラフ	反比例のグラフ					
		比例、反比例の利用					
	まとめ	学年末試験					
		課題別学習(含む:学年末試験直し)					
		課題別学習(1年間の総復習)					
指導方法の工夫改善等	生徒が自ら数学の世界を広げるよう、問題解決的な学習活動を推進していく。 生徒の理解度に差が現れる状況の場合は、習熟度別指導を積極的に行っていく。						
課題・提出物等	問題集「実力練成テキスト中学数学2」については、自主学習用として家庭学習や日々の授業で使用する。また、その実施状況を定期的に把握し、状況分析とその手立てを行う。						
未到達者への対応	学習内容の理解が不十分な生徒に対しては、自ら学習課題を明らかにできる手立てを工夫するとともに、その克服に向けての課題別学習を実施する。						
総合的な学習の時間、 道徳(教育)、特別活動 等との関連等							

